

七月一日（月） 晴 暑

久しぶりで早く起きた、今日は興亜奉公日だ、六時に起きてラジオを聞いたりして朝食をすませてゆっくり出かける。

井上さん休む十時さんは第二乙種合格です。買入先送金仕事一杯あるので出るのに本当に困っている。請求書一杯あるしよし出来るだけやって行くから。

西尾さん久しぶりで出てくる、病気の方も案外早く癒って元気はないが、出て来た。岡崎さんは営業へ吉池さんは原価へ十時さんは労務へ坂倉さんは現場へ行く事となった。現場へ行ったら大へん、勉強しよう。講義、蒲田事務 物価と統制に於いて七時十分前終わる。

石川君と蒲田郵便局へ行く八時半帰る。

明日から早いぞ九時半だ、寝よう。

日誌提出す「昨夜より政寿さんのw i f uがおいでになる」

欄外の記事

身から出た錆（古諺）

天津租界隔絶強化・反英運動機運濃厚（昭和14）

七月二日（火） 曇 暑

今日から現場だ早く起きて行く、初めて七時半の会社のサイレンを聞いた。生憎課長がおいでにならないでしまったので現場行中止で残務整理だよ。

突然鶴田さん大沢さんへ召集令下る。重要な人が召集なので会社では困ることでせう。鶴田さんは神戸から帰ったそうだ。庶務の青山さんはやめました。

何だか今日は落着がなかった。明日から愈々現場です。

終って宮崎事務の工場会計に就いて七時迄講義あり、日新寮への入寮希望者を調べた

一、 何事もおちょうしにのらず慎重にやれ、

一、 落ち着け、態度、注意力

一、 もうすこし継続的に行動に出よ、

一、 男だ、日本人だ、この心掛け、

欄外の記事

夏のひる炭火おこせば 気かな（廣江八重桜）

新田義貞戦死（延元3）徳川家康江戸城入（慶長5）松方正義没（大正13）

七月三日（水） 晴 暑

現場だ現場だと思ってみるのに現場へ行かないそれで仕事が手に着かず本当に困ってみる。正午、鶴田さん、お見えになる。坊主頭も勇ましく興奮漲った顔で何処となく心を使って疲れてみる様子です。

一時万歳三唱をなす、事務の引継ぎは田崎さんと坂倉さん行ふ。自分迄興奮してしまつて兵隊へ行きたい様な気持ちになった。会社終わつて有楽町日劇前ニュートオキョウで鶴田氏壮行会に参列す、その時学生が鶴田氏と共に明治の校歌を唄って互いに別れ合った。その時は感激せずにはいられなかった。皆んなで12人位であつた。八時半 終わる。

それから三人で銀座を歩き九時新橋駅より電車、九時半すぎ帰宅す、十時すぎ就寝す、

欄外の記事

むささびは木ぬれ求むとあしひきの山の獵夫にあひにけるかも（志賀皇子）
京浜間に郵便を設く（明治4） 斎藤内閣総辞職（昭和9）

七月四日（木） 晴 暑

暑いと暑いと幾ら言つても無駄な事は知つてみても自然に出てしまふ程暑くなつた、汗は清水の如く湧き出るし、咽喉はかわくので水をはがぶがぶ身体をこわすもとだこれから暑いと言つたら五銭で貯める事と誓約しよう。必ず午前中はぶらぶらそしてみま午後課長さんの処へ聞きに、行くと課長さんが現場へ連れて行く四人です、

今日は遅いから工場見学だけ疲れた、立ってみて腰をかけたりに出来ないのです、同じ処何べんもいろいろ廻りだ、明日からは本格的に現場勤務に服そう、

習字御清書提出 七時半着家

風呂へ行く

- 一、 勉強と研究
- 一、 絶対に負けない
- 一、 緊張してやる 余計な事に口を出さない事

欄外の記事

最良の魚は海底を泳ぐ（英国俚諺）
米国独立（1776）湖古占領・南昌にて敵十五機を撃墜（昭和13）

七月 五日（金） 晴 暑

今日から愈々製罐物勤務です、先づ山本さんに紹介されて朝製罐工場へ行きました。僕と営業の佐藤君です、午前中は岩間さんより製罐工場に就いて工作に就いて色々と説明がありました。

製罐事務所は非常にやかましく機械の音がごうごうする処です、しかし人は皆んなよさそうです。

午後は書類の整理です、部屋は暗い方ですが此所は十日迄です、一日の勤めも終って会計の部屋へ帰りました。皆んなが帰った後坂倉さんから僕達三人に仕事に対する根本的態度に就いて又鶴田さんの出征後一生懸命やらねばならぬと話がありました。

七時半帰る、
九時就寝す

欄外の記事

障子しめて灯にあり河鹿いとけなし（碧雲居）
蒲生君平没（文化10）セシルローズ生（1853）代々木練兵場新設（明治42）

七月六日（土）晴 暑

首根に此頃何だかぼろぼろ汗も見たいなものが出来て困ってしまひました。
第二日目の製罐事務所再び書類の整理で一日終る あきると工場内見学で元気ずける。
坂倉さん鶴見へ下宿替えるそうです。
石川君と一緒に帰る、六時半 帰 家
風呂へ行く

僕に第一に必要な事は、
先づ態度慎重に臨む事
行為はすべて積極的行動へ思ひ切って勇気を持ってやれ

欄外の記事

八ヶ獄露の御空を嘯みにけり（茅舎）
高野蘭亭没（宝暦7）外蒙ソ軍をハルハ河に厭迫（昭和14）

七月 七日（日）晴 暑
特別記事 日支事変 第四回記念日

今日の日曜をどうして暮らそうかと思案にふけてゐる時、はからずも深川の平太郎夫妻様 お見えになられて潮干狩に行く事となりました。五人で八時半出かけました。京浜電車で行きました。穴守迄行き歩いて海岸に出ました。まだ空は晴れないで雲があちこちに浮かんでゐました。人は最早雲の子を散らした様に多く来てゐます。まだ潮は引き切らず

ひざのあたりまでです。二三時間もすぎたか潮はすっかりひけてしまひました。とったはとったはメリケン袋に三ツとはけで一杯とあみ袋に三ツと茶屋で一時半昼食をして運搬に困難を致しました日に手足が赤くやけて帰って来たのでピリピリ痛くて困りました、何だか疲れてねむくてたまりません採って来たあさりや蛤が石ころの様にしか見えません。夕食後ラジオを聞き九時寝ました、平太郎夫妻さんは夕食後七時半頃レイ子ちゃんを連れてかえられた。

欄外の記事

明断は名文の基礎なり（ロスコムモン）

盧溝橋事件勃発（昭和12）

七月 八日（月） 曇 暑

昨日 余り日に焼けたので腕と足がピリピリする本当に弱ったよ。午前中は暑かったが、午後から夕方にかけて涼しくなって来た。雨が降った為であらうか。岩間さんより工場内の説明を聞いて歩きました。書類の整理を行ふ、会計に於いて鶴田さん出征に鑑み、新陣容役割分担を決定しました。そして机の位置を変へました。

講義、組合問題に就いて藤田事務、七時迄、感ぜし事、

- 一、 誰にも負けない事、努力を忘れず
- 一、 自己の職務に忠実で、正確に迅速に為せ
- 一、 ひがみ心を起こさず先づ負けない様に勉強する事、
- 一、 正直にやれ

今日、亀戸のおばさんとか言ふ人がこられた。

十時半 寝る

欄外の記事

油蟬鳴いて曇れ行く国境（大糟武雄）

岡田内閣成る（昭和9）盧溝橋事件冀察首脳会議(昭和12)

七月 九日（火） 雨 暖

曇った天気です。気報通報では時々小雨があるでせう遂に夕方になってから降って来た。書類の整理も終わった明日一日となった。非常に製罐工場を有効に過す事が出来た。研究心が増して来た様だ。現物第一期も終ろうとしてゐる。

岩間さんにも又外の人にもお世話になった明日はよく御礼を言って製罐を出よう、講義、工場会計 宮崎事務、雨の件を急いで帰りました。夕食をして色々故郷の事や、昔

の事を笑ひざわめき語り会いました。

九時三十五分だ、昔懐かしい支那そばやの音が聞こえてくる、又しずくたる音、雨が降ってゐるのだろう、

感ぜし事

実行 勉強 努力

欄外の記事

七月の青嶺まじかく溶鑛爐（誓子）

森鷗外没（大正11）盧溝橋事件（昭和12）南昌空襲（昭和13）

七月 十日（水） 曇 後 雨 暑

六時起床、ラジオ体操の始めの声と共に起きた、どうもぐずぐずしてゐるせいか、何時も大急ぎで行くのである。今朝は何時もより一寸遅かった。

製罐工場も今日で完了、明日からは工程だ、

岩間さん及、関谷さんから材料及、人工関係に就いて種々伺う事が出来ました。製罐では色々と覚える事が出来た。非常に有効であつた。聞いて知ると言ふ事が大切だ。

六時退社、金子さんに手紙を頼まれて大森郵便局にて書留便を出す。七時すぎかへる、靴修繕一円支払ふ、

風呂に行く、九時帰る、十時就寝、

感ぜし事

一、 何事も知ったか振りて得意になって話す悪弊がある充分に考えて慎重にして自信を持てこつこつと研究と勉強せよ。

欄外の記事

大なる事業は大なる準備を要す（古諺）

支那軍龍王廟の我軍を襲撃・事態急迫（昭和12）汪兆銘蒋介石との絶縁声明（昭和14）

七月十一日（水） 曇 暑

現場行となつてから、朝七時二十五分に着くと僕と小林君はお茶をのんで互いに愉快笑ひ合つた。乾杯をやらうなど何時もの事である、今朝もこれをやったよ。

工程計画係を命ぜられた、今非常に暇なそうである。今日は先づ今井さんより工程計画係の仕事の概要に就いて又、機械工場を説明して戴きました。小林、大沼の両君は工程進捗係です、別室にがんばってるよ、今日は大体ノートする位で終つた、

習字、練習、説明も大切であらうが長くてあきてしまふもうすこし説明を短く練習の時間を多くして欲しいものである、八時帰る、夕方になるとどうしても雨が降る、夏雨だ、濡

れて行こうもよいが困った雨だよ、
九時半 記 十時近く 寝る

欄外の記事

杉ふかきみ山参道わが額の上より人の脚おりてくる（四賀光子）
帝国政府北支事変重大決意声明（昭和12）張鼓峰事件（昭和13）

七月 十二日 （金） 曇 暑

受信 手代木 賢二君

朝夕には小雨があるでせう、これが気象通報です、霧雨が降ってゐたが、レンコート一つで出かけました。工程計画に於いて先づ図面の振分け整理を行ひました。午後には工程表作成です。相当あるので実際骨がおれます、漸く半分迄書きました。

後は明朝のお楽しみです、買入先支払の為準備を手伝ふ、残業七時迄、金子さんと一緒に帰りました。大森フランス屋にて僕と金子君が夕食をお馳走してくれました。実際、有難い事です、お礼をよく言ふ事を忘れてはなるまい 八時半 帰家、
夕食一杯 食べました。青豆を食べました。雑談後 十時すぎ 床に就く

欄外の記事

河の石青みどろ濃く雷来る（横光利一）
支那軍協定不履行我監視隊に以前挑発行為（昭和12）

七月 十三日 （土） 曇 暑

又、雨が降ってゐる、傘を必要とする程も降ってゐない、日中は晴れたり曇ったりの天候である、又夕方になるとぼつぼつ降り出してくるのである。実際困ってゐるよ。今日も最早半月も過ぎ様としてゐる、学校では試験がもう終つたであらう、暑い道場で一生懸命声を上げてやってみる元気な剣道部の後輩が浮かんでくる、今日の仕事は工程表へ記入、午後三時近く終り今井さんに製罐場を説明して戴きました。其後今井主任さんより製図、図面の見方を教へて戴きました。六時半帰家、夕食後 ラジオを聞いて十時寝る

- 一、 清潔を旨とし、一週間に二回以上入浴する事
- 一、 整理整頓

欄外の記事

無識の人は勇氣多し（ギリシア俚諺）
土井利勝没（正保元）為永春水獄死(天保13)青山・渋谷の墓地を定む（明治5）

七月 十日（日） 曇晴 暑

受信 福田 誠君

七時半まで寝てゐる、久らく振りでゆっくりしてゐました。朝食の後、おばさん 深川に行かれる、随分風がひどい窓の戸ががたがた鳴る 実際すごいから風とでも言うか、それに暑い一日中風が吹いてゐた。

午後、蒲田松竹常設館へ行く、愛の暴風及、弥次喜多怪談道中、傘二下落一 日本ニュース No5 を見る、六拾銭 大混みなので最後まで起きてゐた。疲れてくたくただ帰りにもやっと帰って来た、五時かへる、

風呂に行く、手と足の皮がむけた、夕食後、ラジオを聴き八時半床に就く、東京はお盆だ人出も多い様だ、お盆だと言ってもお盆の気がしない、やはり田舎者は旧盆だ、

欄外の記事

夕立や朝顔の蔓よるべなき (虚子)

支那側の不法射撃皇軍瀕々痛憤す (昭和12)

七月 十五日 (月) 曇 暑

すごい風だやかましくて眠れない、夜中の地震相当強かった様である家の人は皆んな外へ出たが私は出なかった、しかし一寸と驚きました、

電車、相当遅れたので定刻迄間に合ひませんでした、

仕事がなくひまであった、今井さんと午前中工場見学をなす、今日から実習生が二人程見えました。現場を廻る度に砂をかぶってやり切れない、

明日から暇があつたらどンドン現場を廻る事にしよう

講義藤田事務さんより組合問題に就いて眠くて実際困ったよ、

九時半 床に就く そのままあとはわからなくなってしまった、

七月十六日 (火) 雨晴 暑

特別記事 米内内閣 総辞職

ちょっと曇っていた、出かけると雨がぱらぱらと降り出して来た。戻るにも雨宿りするの、電車が間に合わないし、よし梅雨だ濡れて行かうと、ちょっと風流にね実際はむりをした駅まで行く内に小雨となった。

得意のお茶をのんで八時十五分前工作へ行く仕事が殆どない、ぼんやり暮らすも実際疲れるよ、

見学は見学過ぎてもういけませんだ。

頑張りに頑張って五時のサイレン今か今かと待ち構えているこれが僕の今日の考えだった。講義、金曜日行ふ事となる、六時二十分家に着く、お盆の十六日だ、どこがお盆だかわか

らんよ。おはぎを戴く、それからこほり水をのんで話して九時床に就く、手紙を書く
十時 寝る

欄外の記事

夏菊や人衰へてたたずみぬ（横光利一）
支那軍約三十万瀧海線以北に集中（昭和12）

七月 十七日（水）晴 暑

特別記事 近衛公 大命降下

発信 福田 誠君 家へ

昨日余り食べたり飲んだりした為か会社へ行き乍ら腹が痛くなった便所へ行った そこで
少しよくなった が 食物には充分気をつけなくてはいけない、朝をもっと早く起きて腹
の具合がよくなって行く様に時間の余裕をつけなければならない、午前中は仕事なく眠く
て実際困った、

午後、図面が設計から来たので工程表を作成致しました。五時終って出征軍人の歓送会が
ありました。得意の百武さん熱弁を奮いました。残業 六月締切りの為 書類の作成に金
額がどうしても合はず九時迄頑張るしかし駄目だった、鶴見 森永キャンデーで岡崎さん
坂倉さん、金子君の四人で紅茶を飲む、家へ十時かへる、

暑かったが又風も相当強かった、

十時半 就寝

欄外の記事

雨つゆのふりかかる木の間くぐり来て君が家の庭に栗鼠のはしる見たり（片山広子）
伊藤東崖没（元文元）江戸を東京と改称（明治元）

七月 十八日（木）晴 暑

今十時だこれから日記を書こうとしてゐる。午後九時風呂に行ってくる、石鹼を拾二銭で
買ふ、新聞に海相に吉田さんに陸相東條さん外相に松岡さんが決定した記事を見る、

八時十五分夕食をなす、電車の中は笑ひたくて笑ひたくて笑い続けて大森まで来た、習字
清書 次回の習字のら 九月 上旬まで習字の夏休みと言ふものなのか出来た、しかし夏
休み課題として七枚のお清書を提出する事、

午後は、カタログの写し取る事を今井さんよりたのまれたそれが英語で書いてある、手が
疲れてしまった、

午前中は工程表の書き直し一日中物作りであった、今とても涼しい風が吹いてくる、では
寝ようかな

又明日朗らかに行こうよ

欄外の記事

鼠取る猫は爪かくす（古諺）

宗哲元張自忠の正式陳謝・我方監視（昭和12）南郷大尉戦死（昭和13）

七月 十九日（金） 晴 暑

今日もペン習字、明日も、英語の筆記は実際つらいよ、しかし明日一日で計画もおさらばだ、早く明日がすぎればよい、此頃考えるに会社の寄宿生活をしたくなかった。一寸と、食事はまずいそうだが団体生活をやって身体を鍛錬をしたいと思つてゐるのである、八月一日から行きたいと思ふ、これを実現して見たいと思つてゐる、今の生活では余り苦勞がない様な気がする若い時は大いに苦勞をしよう、

講義、宮崎事務さんの工場会計に就いて六時半終わる、石川君と日曜日に海水浴に行く事を約束す

七時半 帰家 静子さんが十時頃帰ってくる、来月から軽井沢の武花野デパートに行く由、十一時、になろうとしてゐる、実行せよ、この言葉を忘れないで寝よう、

欄外の記事

戦の跡を洗ひて夕立のすぎたる空に月高くあり（加藤綾人）

北支事変・帝国政府七月二十日以後独自行動を執るとの重大声明（昭和12）

七月 二十日（土） 晴 暑

英習字も出来上がった、計画も今日一日で終りかと思へば嬉しい、現場にてぶらぶら暮らしては、会計の人にすまない様な気がする。もう十日間です。

ちょっと工程計画係はいやな気分のする処です。しかし、色々な事を教えてくれ又覚える事が出来ました。

来週からは進捗係です、今井さんは休みにになりました。残業を行ふ、会計にて重役会書類作成の為手伝ふ、石川君と小林君と大森駅にて集合する事に約束致しました。

七時半退社、大森にて海水着を買ふ為に歩いたが、適当なるのが見つからず夕食後、再び行くも買ふ事が出来なかった。九時五十分帰る、

十時 就 寝

欄外の記事

勝ち負けは知らず夏野に生きるもの（松井部隊長）

岩倉具視没（明治16）皇軍宛平县城猛攻・厭懲の火蓋切らる（昭和12）

七月二十一日（日） 晴 暑

あっ、八時だこれはしまったと思っではね起きると何です、未だ六時十分前、また何と早く起きてしまったらう、ラジオ体操の元気な声が学校の庭から聞こえてくる、九時三十分前家を出る、すこし早いと思っでゆっくり出ると石川君小林君の両君がずいぶん待って居たそうだ、

先づ横浜まで直通だ、横浜で色々考えた末近く廣本牧がよいだろうと相談して桜木町まで行って歩く、

ずいぶん歩いた、電車は一杯でとても乗れない、本牧は貝殻が大いので足が痛い海水浴場ではない様だ、潮干狩りにはよいだろう三時、帰る途中伊勢佐木町にて休む、五時半家に帰る

今日はざっと一円五六十銭使った、しかし身体のためにはよかった疲れた、

十時 ネル

欄外の記事

泣いて来る蟬もあり夏の月入りぬ（松井部隊長）

米使ハリス下田に来る（安政3）ボイル湖上空三十九機撃墜（昭和14）

七月 二十二日（月） 晴 暑

昨日の疲れですこしおきにくかった、肩がびりびりする、丁度よい加減に焼けました。鶴見行にて朝すこし今村さんより工程表を頼まれて一二枚程書く八時半山本さんの処へ行って聞く、私と佐藤君は工程進捗係へ行く小林君等は製罐へ行きました。十一時まで待つそれから中尾さんの進捗係の仕事の話がありました。約一時間程です、

午後は工場見学です。実際製品がわからないので困ってしまひました。明日から工場見取図を画く事と致しました。終わって講義、実際眠くてあくびの連続だ今日は重要物資に就いての話ありました。七時半、家にかへる ラジオを聞いて九時半 床につく日誌がまだだったので困ってしまひました。

九時半 ねる

欄外の記事

書くことは考えること（西諺）

源頼家征夷大將軍となる（建仁2）宗哲元軍撤退開始（昭和12）

七月 二十三日（火） 晴 暑

午前中は実際眠かった、目が半分とじてゐる佐藤君は眠ってしまった、実さんが丁度こられて遂に見つかりました。注意を受けました。工程表と（？）諸表とのチェックをやりま

した。午後現場へ出ました。先づ工場の見取図 機械の配区を書く事にし今日は第一機械工場の機械配置図を書きました。第一機械工場で新井君と会って話をし漸く日新寮へ行く決意を堅く致しました。

先づ経済的に助かるだけでなく会社へは好都合だし、又今の運動不足を補ふ為、鍛錬に最もよいと思ふ、

宮崎事務、工場会計、原価要素に就いて話しあり、七時帰る、八時半風呂に行く、もう十時です早く、寝よう

欄外の記事

夏山の重なりうつる月夜かな (かな女)

二宮尊徳生 (天明7) ソ蒙軍を総攻撃・ハルハ河上空四十五機撃墜 (昭和14)

七月 二十四日 (水) 晴 暑

勇気力に乏しい自分はこれが一番の欠点であると思ふ、何時も之に依って失敗する事が多い、真の男子たるものは正しい事を何の苦もなく出来る人であると思ふ、どうもためらっている事が多い、わからない事はどんどん聞くそして質問をだんだんとなくして行く、自分は今、日新寮へ入寮しようとしてゐる。しかしそれが下宿屋のおばさんに言ふ事が出来ないどうして心臓が弱いのだらう 明日は必ず言はふそして実現しよう、

明日から二日間会計へ臨時召集される事となった、月末支払の為手伝ふ

今日は残業を行った、買入先の下調べをなす、

工場見取図を描く もう現場も一週間となってしまった、

夕食後ラジオを聞いて九時 床に就く

十時 就寝

欄外の記事

銃眼をきらりと過ぎし夏の蝶 (濱秋海裳)

ノモンハンにて四十一機撃墜 (昭和14)

七月 二十五日 (木) 晴 暑

今日から会計を手伝ふ事となった、今日と明日の二日間である、目的は買入先支払準備の為である、僕のみない一ヶ月間に非常に書類の整理が悪くなった、部屋が乱雑であるこれは実際困ってしまった。先づ来月からは書類の整理を完全にやらねばならぬ、女学生が会計へ実習へ来ました。今日は給料日である、今月は二十七円十七銭の収入そこへ下宿屋二十円支払ふ 後は七円これを一ヶ月持ちこたいねばならぬ、八月一日からは愈々日新寮へ入る事にします。そこでないと毎日赤字続きで遂には日干しになるであらう、終つて習字 一枚清書を提出す、七時半帰家、理髪屋へ行かうと思つたが休業の為中止 十時まで本を見る、

十一時 就寝す

欄外の記事

よき時買ふ人は安く買ふ (伊国俚諺)

塙首相ドルフス暗殺さる (1939) ノモンハンにて五十九機撃墜 (昭和14)

七月 二十六日 (金) 晴 暑

お天気は続くが今日は今朝から雲が出てみたせいか風があり涼しかった。昨夜は一寸と寒気を感じました。買入先支払準備、朝から行ふも又合わずとうとう三時頃漸く合ふそれから調書を作る 残業して振込依頼書を書く、岡崎さん等三人は(吉神さん)午後本店へ行かれて帰りませんでした。現場では佐藤君が悲しがってゐる、明日からはどうにか 行けそうだ、

金子さんと一緒に帰る大森、不二屋にて飲物をおごって戴く何時も何時もお馳走になってゐる、友人は休暇をとって故郷へ帰ったとする、しかし私は今夏は帰郷しないつもりだ、財政的に困るからな 帰っても大したことはないからな、床屋へ行くと四十五銭となる
十時半 ネル

欄外の記事

夏雲の飛ぶことはやしわれてより (余子)

廊坊駅激戦・陸軍機初陣・北京広安門の激戦 (昭和12) 九江陥落 (昭和13)

七月 二十七日 (土) 晴 暑

受信 佐野正三君

どんより曇った天候です、朝の内会計にて買入金振込依頼書を作成して八時半より現場の方へ行く、相変わらず工作課の方は閑でぼんやり一日をすごしてしまふ。

寮へ行く事が中々決定しない どうも勇気がないやうだ、しかし自分の身を考える時どうしても寮へ行かねばなりません。明日は必ず下宿屋の人に言って八月一日から寮へ行く事とする。

毎日自分が勇気がない為に不愉快な生活したりしてゐる、行くと言ったら行く、もう言葉は無用だ 勇気と実行だ、六時半会社を出る、電車が混んでゐてひどかった、附近に雷が落ちた様です。家に帰ったのが八時半なり

十時 寝る

欄外の記事

夏雲の翼の影ぞ草をわたる (秋桜子)

武藤元帥没 (昭和8) 通州事件突発 (昭和12)

七月二十八日（日）晴 暑

発信 佐野正三君

「嵐に咲く花」明治維新に於ける会津藩征討に関連した一青年の物語である。ハーモニカ小僧、大學出のインテリがスシ屋になる話、日本刀 文化映画、日本ニュース、午後一時半から白木屋劇場にて見る、三時五十分 避難訓練を行ふ、近く防空演習があるらしい 六時半帰る 風呂へ行く
夕食後、手紙を書く

- 一、 慎重なる態度を以って凡てに注意すべし
- 一、 何事も研究的態度を以って為せ
- 一、 責任觀念の強い人であれ 人にかづけるな
- 一、 仕事の敏速を計って明日に延ばすな 即決主義

欄外の記事

楽あれば苦あり（古諺）

奥国セルビアに宣戦（大正3）皇軍西苑南苑北苑沙河鎮清河鎮一帶占領（昭和12）

七月二十九日（月）晴 涼

発信 天寧寺町

今日は不愉快な日であった、朝から実工作課長さんにどやされた。ひまな現場をどうしよう、しかし 或る程度まで要領よくやる事が必要だと思ふ。ひまだからと言ってぼんやりしてゐるからいけないのだ、よしやるぞ、

藤田事務の講義ではなくて今日は便箋應合でありました。

六時半終る、大森にて漱石小品集六十銭で買ふ、七時半家に帰る、今日も言う事が出来なかった、よし必ず今週中に実現する、明日の昼休みに労務の近藤さんに言はうそして来週からは寮生活だ、

現場生活は大したよい感じがしなかったもう二日だ最後を立派にやっけて行かう

十時 寝る

欄外の記事

郷土部隊還りて来しよ持つ旗も千切れよと振るその父その子（村野次郎）

ムッソリーニ生（1883）皇軍北京を掃蕩・天津市街戦（昭和12）

七月三十日（火）晴 暑

日中は暑いが朝夕はとても涼しくなった、未だ七月末なのにどうしてこんなに涼しくなっただらうかと不思議に思はれる。

今日心強く労務へ言ひに行きました。そしてかへりには総ム課長さんに言ひました。

そこで八月四日から御世話になる事にしました。海水浴の回覧がありましたので早速申込みました。そこで問題はパンツです、帰りに石川君と大森白木屋にて見るも相当値段の高いものなので見合わせ、

現物も明日一日となった、早く会計へ帰りたくて帰りたくて仕方がない、しかし相当 御世話になり色々知識を得ました事は実に感謝せねばなりません。

今日も下宿屋の人へ言う事も出来なかった

心臓の弱い人は困るよ。

欄外の記事

樹々暮れて水打ち見せり蟬ひとつ（悌三郎）

明治大帝崩御（明治45）皇軍長辛店及太沽砲台占拠・北平治安維持會成立（昭和12）

七月三十一日（水）晴 暑

発信 小原喜八様外 三軒へ 暑中見舞

みそかだ、嬉しいと言はふか 今日一日の我慢だ、十時頃より図面会議がある為現場見学をなす、一日中 殆ど現場に起って乍ら居たのでくたびれてしまった。相当の修養になった、日誌紛失してから丁度一週間はすぎようとしているが、一向手懸りがないので新しいのを作る事にした。明日から会社の昼食には米食がないそうで代用食ばかりではまいってしまひますよ、帰りに石川君と金子君の三人で川崎へ降りました。そして少美屋デパートへ行き見学をなす、下宿屋へ話すとどうも感じが悪くしたらしい、風呂へ行く、十時近くなる様だ、寝よう

欄外の記事

今宵また重爆機の音はとして病院のベットに寝がえりをうつ（片桐囊）

独音楽家フランツ・リスト没（1888）皇軍天津通州掃蕩（昭和12）